

高校生の交通安全意識に関するアンケート調査及び文献調査

柴若光昭・馬場ゆかり・西岡伸紀・菊田文夫・中園伸二
(東京大学教育学部)

昭和59年1月11日に、某都立高校3年生70名(男子35名女子34名不明1名)に質問紙を用いた集合配布調査を実施した。調査項目は、Face Sheet の他に、運転免許の有無とその種類、四輪車・二輪車の運転歴、所有車両、家族の免許の有無と運転歴、交通事故の経験、安全教育について、交通や車や安全に関する意識、過去の安全行動、その他である。

単純集計によれば、運転免許所有者(大部分は原付免許)は全体の30.0%、交通事故経験のある者28.6%、交通違反の経験71.4%、無免許運転の経験40.0%、自転車の2人乗りは、「よくやった」61.4%、「ときどきやった」30.0%などの結果であった。安全などに関する意識については、28項目のうち、主なものを図1に示した。飲酒運転に否定的で、交通事故を悲惨な

ものだとしながらも、一方では車や運転に憧れる高校生の心理がうかがえる。また、無免許運転、自転車の手放し運転、2人乗りなどの多さからも、安全行動は全般に不良であるといえよう。クロス集計からも若干の興味ある結果を得たが、今回は紙幅の都合で省略する。

並行して実施した青少年の交通安全意識・行動に関する文献調査によれば、人間の心理行動のソフトウェア面の研究は全般に遅れているが、青少年ドライバーの事故率の高さに関しては、1) risk-taking な態度が問題となること、2) 青少年の安全態度の中でも認知成分は中高齢と差がなく、感情成分に問題があること、3) 経験年数の少なさが不利に働いているであろうこと、などが指摘されている。

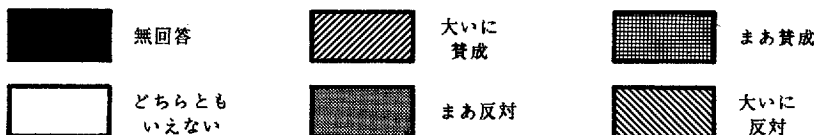
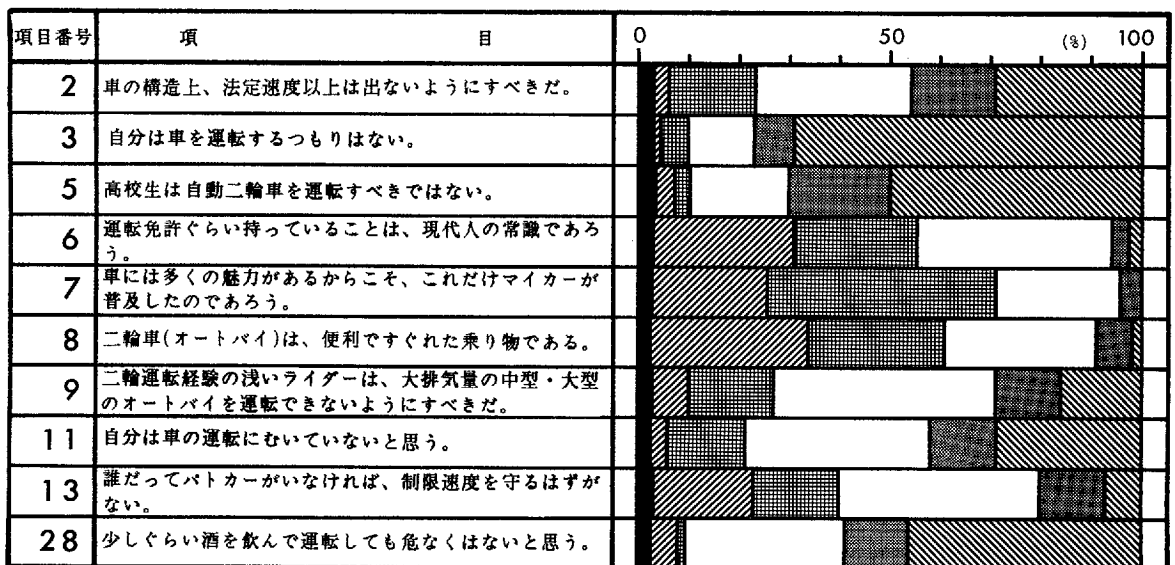


図1 高校生の交通安全意識



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 59 年 1 月 11 日に、某都立高校 3 年生 70 名(男子 35 名女子 34 名不明 1 名)に質問紙を用いた集合配布調査を実施した。調査項目は、FaceSheet の他に、運転免許の有無とその種類、四輪車・二輪車の運転歴、所有車両、家族の免許の有無と運転歴、交通事故の経験、安全教育について、交通や車や安全に関する意識、過去の安全行動、その他である。